# 丹波黒井の家





# | 敷地とその周辺について

敷地は、兵庫県丹波市にあり、かつて商店が建ち並んでいた旧道沿いの角地である。 旧道沿いは、商店の廃業や建物の老朽化に伴う建て替えを機に店舗併用住宅から 専用住宅に用途が変わり、駐車場、その奥に閉じた住宅が建つ事例が散見される。 敷地の南の旧道や西にある道路は小学校へ続く道で、平日は児童の行き来、週末 はクラブ活動の送迎車など年間を通して交通量が多い。また、最寄り駅から敷地 北側に位置する「城山」登山口へのルート上でもあり、曜日・季節を問わず人流 がある。







#### 【通りに開いた豊かな空間を潜ませている旧家】

今も旧道沿いには、掃き出し窓があり、かつては商店として街に開かれた空間での賑わいを彷彿とさせる旧家がいくつか見られる。しかし、現在は正面の掃き出し窓はカーテンやシャッターで覆われ、「暮らし」が見えづらくなっている。









#### 【通りに対して閉じた住宅】

現代の専用住宅の多くは、プライベートを確保することに重きを置く。 そのため、通り沿いに高い柵や塀を設けていたり、玄関から通りまで距離があったりと、 街との接点を断つものが多い。







# | 設計趣旨

家族 4 人が暮らす住宅であり、家族のプライベートな空間を 確保しつつ、街の歴史や周辺環境を建築の一要素として取り 入れる計画とした。

## 【エリア視点からの設計】

児童や登山客の往来がある西側は閉じた立面とする一方で、かつて商店並んでいた南側立面は、掃き出し窓の玄関により、 駐車場を玄関・リビングと一体的に利用できるセカンドリビングとすることで、街に開かれていた場所であるという歴史を踏襲した。

#### 【更新されていく建築】

近い将来夫婦2人になった時、転用や転貸も想定し、住宅に手を加えるハードルを下げるために柱梁は全て現しとし、電気設備を1階の箱樋の中に露出配線とすることで、電気工事士の施主が自ら更新できる納まりとしている。

日本から、アメリカ、インドと移り住んできた家族の住まい に対する寛容なふるまいが、旧道に対して閉じた専用住宅の 在り方を再考するきっかけになることを期待している。

#### 建物の概要

# |地域材の活用

柱・梁:兵庫県産使用

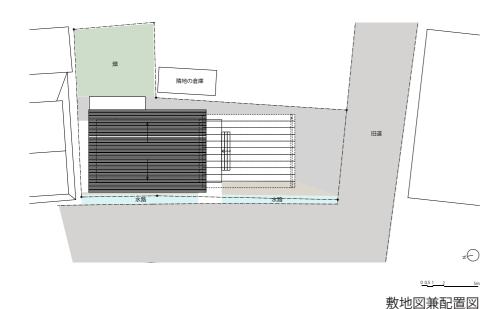
床面積:124.22 ㎡ 構造:木造2階建て

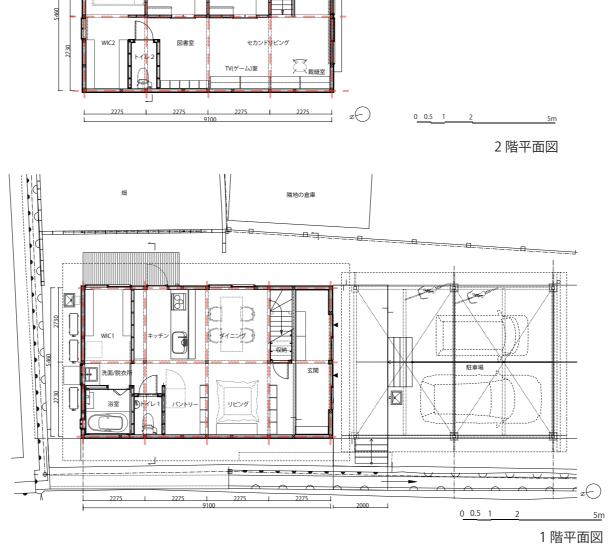
建物種類:戸建て

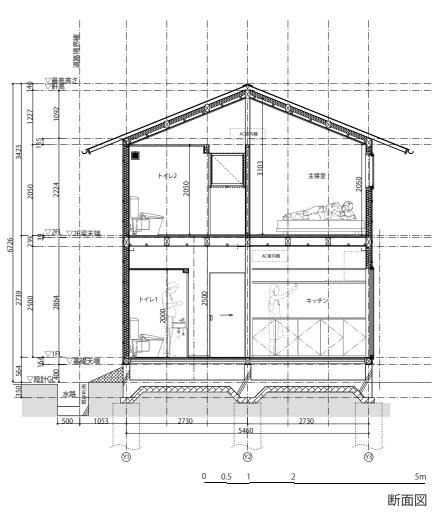
# | 平面計画について

平面は、15 坪の床を 2 層重ねたシンプルな構成で、1 階に水回りと LDK、2 階に個室が配置されている。

15 坪の床は、1 グリッド (=構造の単位) 2,275mm×2,730mm の合計 8 グリッドで構成し、1 グリッドは、浴室・キッチン・玄 関だと少し広く (=ちょっとブカブカ)、ダイニング・リビング・ 個室だと少し狭い (=ちょっとキツキツである) ため、設えがグリッドを日常的に横断することになり、それによって平面が硬直する ことが避けられると考えた。







## 街に開かれた空間

玄関から掃き出し窓沿いに見た旧道



玄関を旧道に対して開いたつくりとしたことで、帰宅した家族の気配を感じたり、近所の人と井戸端会議をしたりと街との接点を作り出す。

隣接する畑を繋ぐ物干しスペースもリビングの延長と捉えた。 余白のある空間それぞれを緩やかに繋ぐことで、日常における多様な振る舞いを許容し、暮らしの気配が街へ滲み出すことを目指した。

# | 人生のフェーズに寄り添う

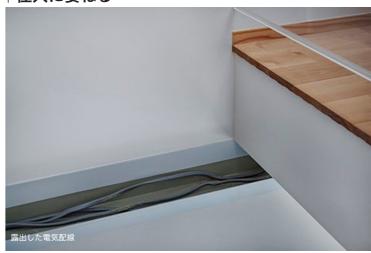


現在は専用住宅として住み始めているが、1階飲食店・2階住居、1階住居・2階工房などの併用住宅となることも計画当初から想定し、1階は水周り以外の間仕切り壁は設けず、可動家具の配置で生活の変化に対応している。



2階は主寝室と子供室(2室)に間仕切り壁を設けているが、将来的に撤去することを想定して、天井との取り合いを無くし、棚や机も簡易なつくりにして、更新することを前提とした計画とした。 日々変化していく暮らし方や環境を柔軟に受け入れ、それとともに建築も年を重ね成長するような空間を目指した。

# 住人に委ねる



暮らし方とともに変化していく設えに合わせて電気配線も自由に更 新できるよう、配線は露出させている。

現状の間取りは暫定的なものという考えを反映した細部の納まりとなっており、建築が使われ続けるために、住人が手を加えやすいつくりとしている。